

令和4年度

学校自己評価表（報告）

【夜間部】

学校運営計画				
学校運営方針		目標と自信を持ち、これからの人生に意欲的に立ち向かっていく生徒を育成する。 全職員が組織的に連携して多様な生徒に対応し、基礎学力の定着や進路実現を図るとともに、健康で個性豊かな人間性に満ちた生徒を育成する。		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
1 成果 生徒一人ひとりに対して、担任を中心に各分掌とも密接な連携をとりながら、きめ細かな組織的な取り組みを行った結果、学習指導、進路指導等に前進と改善が見られた。（昨年比） ①中途退学率 4.9ポイント減 転出率 2.1ポイント減 ②進路 ・大学・短大 0.9ポイント増 ・専門学校 5.0ポイント減 ・就職率 3.9ポイント増 ・その他（アルバイト等）0.4ポイント増 ③生徒指導件数増（9件→17件） いじめ認知件数 22件 2 課題 ①中途退学率の減少に向け、引き続き努力する。 ②多様な生徒に対する丁寧かつ組織的な指導体制を確立する。 ③教育相談や通級による指導等、特別支援教育の指導体制を確立し、不登校・休学、いじめ・自殺等の問題について学校を挙げて取り組む。 ④キャリア教育等の実践的指導力を高め、卒業生全員の進路決定を目指す。 ⑤職員について、適切な勤務時間の管理を行う。	学習指導	1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進するとともに、通級による指導を実施し、特別支援教育のより一層の拡充を図る 2 ICTを活用した授業の実践。	教室内での教授法等について検討会を継続的に実施する。また通級指導の検討を定期的にも実施する。全ての職員がICTを活用した授業に取り組む。	
	生徒指導	3 規範意識、公共心を涵養し、全ての生徒が安全、安心に学校生活を送れるようにする。 4 教育相談を中心に据えた生徒指導体制を充実することにより、生徒の基本的な生活習慣を確立する。 5 不登校の生徒及び保護者に対する支援を拡充し、中途退学者の減少を図る。	具体的な指導項目を機会ある毎に生徒に示し、全職員でその指導に当たる。 定期的に教育相談等を行い、いじめ等の問題行動の未然防止や早期解決を図る。 中途退学者、転出者、長期欠席者を前年度比10%削減する。	
	進路指導	6 進路学習に早期から取り組むことにより、生徒の進路意識の高揚を図り、適切な職業観を醸成し、進路希望を実現する。	希望する就職及び進学の実現を図る。就職達成率及び進学達成率ともに100%を目指す。	
	働き方改革	7 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を踏まえた時間外勤務時間の削減を行う。	時間外勤務時間を1ヶ月40時間を越える教員をゼロにする。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進するとともに、通級による指導を実施し、特別支援教育のより一層の拡充を図る。	教室内での教授法等について検討会を継続的に実施する。また通級指導の検討を定期的にも実施する。	①教室移動、着席など基本的な学習指導について、HR、全校集会を利用し、繰り返し指導する。（教科担当、教務）		B
		②教室の学習環境を整備し、授業のユニバーサルデザイン化を図る。（特別支援、教科担当）		B
		③生徒による授業評価（1回）を実施し、授業の改善について研究する。（教務）		B
		③通級指導を行う。また、指導内容や受講生徒の様子についての情報共有を行う。（通級）		B
		②特別支援教育への理解と実践を図るために、年2回の研修を行う。（特別支援）		B
2 ICTを活用した授業の実践。	全ての職員がICTを活用した授業に取り組む。	④ICT活用を進める校内研修を実施して、ICTを活用した授業の実践に取り組む。（ICT、教科担当）		B B

重点目標	具体的目標	具体的方策	評 価	
3 規範意識、公共心を涵養し、全ての生徒が安全、安心に学校生活を送れるようにする。	具体的な指導項目を機会ある毎に生徒に示し、全職員でその指導に当たる。	⑤基本的な生活習慣のより一層の向上を図る。特に挨拶の励行に取り組む。(生徒指導、担任)	B	B
		⑥街頭・校門指導(2回)を実施する。(生徒指導)	B	
		⑦学校生活に関する調査(いじめ等)を(5回)実施する。(いじめ防止)	A	
		⑧長期休業中の過ごし方について(4回)指導する。(生徒指導)	B	
		⑨人権意識の向上をはかる学習をLHRで行う。(同和教育男女平等推進、担任)	B	
		⑩人権学習研修会(1回)を実施し、人権教育に関する職員の理解を深める。(同和教育男女平等推進)	A	
4 教育相談を中心に据えた生徒指導体制を充実することにより、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	定期的に教育相談等を行い、いじめ等の問題行動の未然防止や早期解決を図る。	⑩対人関係に不安を持つ生徒のためにスクール・カウンセラーの活用を促す。(教育相談)	B	B
		⑫教育相談月間(2回)を実施し、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組む。(教育相談、いじめ防止、担任)	B	
		⑭いじめ・自殺防止教育の活動や授業を通じて意識の啓発を図る。(いじめ防止、担任)	B	
5 不登校の生徒及び保護者に対する支援を拡充し、中途退学者の減少を図る。	中途退学者、転出者、長期欠席者を前年度比10%削減する。	⑪長欠生徒、休学者並びにその保護者に対して情報提供を行い、本校相談室への来訪を勧める。(教育相談、担任)	B	B
		⑬休学者や長期欠席者への定期的な情報提供により、復学や登校への支援を図る。(教務、担任)	B	
6 進路学習に早期から取り組むことにより、生徒の進路意識の高揚を図り、適切な職業観を醸成し、進路希望を実現する。	希望する就職及び進学の実現を図る。就職達成率及び進学達成率ともに100%を目指す。	⑮進路講演会・企業見学会を実施し、進路意識の向上をはかる。(進路、担任)	B	B
		⑯より丁寧な面談を通じて、個に応じた進路指導を行う。(進路、担任)	B	
		⑰「進路のてびき」を発行し、HR等さまざまな機会を活用する。(進路、担任)	B	
		⑱社会で必要なマナー指導を全職員をあげて行う。(進路)	B	
7 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を踏まえた時間外勤務時間の削減を行う。	時間外勤務時間を1ヶ月40時間を越える教員をゼロにする。	⑲複数の職員、分掌で業務を分担、協働して、仕事能率の向上を図る。(全職員)	B	B
		⑳行事、会議の開催方法を見直し、仕事量の平均化を図る。(全教職員)	B	
成果	多様な生徒に対し、その特性や家庭環境等をふまえた組織的かつ丁寧な指導が行えている。次年度は、生徒が卒業後の自らの姿を具体的に考えられるような取り組みをさらに充実させ、生徒の希望年次での卒業が実現できるよう指導体制を構築していく。		総合評価 B	